

諏訪地方社保協 ニュース

茅野・岡谷市で滞納者に資格証明書発行！ 来年度の県納付金は減少、国保料(税)は？

今年の市町村懇談は

二〇一九年度秋のキャラバンは11月18日、6市町村に要望書を提出し、懇談を申し入れました。12月26日に岡谷市で懇談が始まり、1月からは16日・下諏訪町、28日・富士見町、2月には4日・茅野市、10日・原村、12日・諏訪市でそれぞれ懇談を行いました。

国民保険問題について

以下は要望書の項目ごにまとめた報告です。

国民健康保険料(税)については県からの来年度納付金額が提示されており、六市町村すべてで昨年よりも保険料(税)下がったとのこと。二〇二〇年度の引き上げを検討しているところはないような話でしたが、岡谷市では懇談後に国保運営協議会から保険料(税)引き上げの答申が出されています。子ども均等割りの減免については全国の市町村で減免の実施が増えていくことを示して要望しましたが、国や県で実施しない

と難しいという回答でした。短期保険証発行については大きな増加はありませんでしたが、諏訪市が3カ月の短期証発行をすべて6カ月で切り替えたこと。茅野市と岡谷市では今までなかった資格証明書が発行されたことが懇談の中でも大きな問題となりました。特に茅野市でのやり取りでは「資格書発行は納税相談に応じない人、折衝できない人。会えない人などに対して審査会を開いて決定している。(高齢者世帯、18歳未満の子ども、特定疾患患者、医療機関に受診中の者には発行していない)。きちんと納税している人と所得があるのに納税しない悪質な人がいる。分けないと不公平になる」との説明。短期証発行に強く抗議して取りやめを要望しましたが、撤回はしませんでした。

介護保険について

介護保険関係では新総合事業の最近の状況について話を伺いましたが、どこも

サービスAの事業はあまり増えていないようでした。

特養の入所判定に関わる公平性が担保できているのかという問題についての回答では、事業所の判定委員会に出席していない市町村では「事業所から声がかければ出席する」という消極的な姿勢でした。積極的に委員会出席している富士見町・原村の姿勢とは大きく違いがありました。

訪問介護の回数制限については地域ケア会議を開催したというところでも「プラン通り回数オーバーを認めたい」としていました。

子ども医療費完全無料化

子ども医療費助成については障害者の窓口無料化を実現することと同時に受給者負担をなくし、窓口完全無料化を強く要請しましたが、「窓口無料が浸透していく中で子どもの医療費が増加している。現状ではこれ以上の負担は困難」との回答です。また、3市に対しては下諏訪・富士見・原村のように対象年齢を高校卒業まで拡大するように要望しました。

障がい者施策の改善

障害福祉サービスを利用してきた方が65歳になると「原則介護保険サービス」に移行してもらうという市町村が全国的には多い中で6市町村は比較的本人の希望に尊重して対応をしている様でした。昨年「浅田訴訟」を例にとり話をした成果でもあると思われる。特に諏訪市では「65歳になったからといって一律に介護保険の申請を進めていないし、切り替わった人も現状ではない」ということでした。災害時の対応についても、それぞれ努力はしているようですが、あまり進んでいないようです。

今年度の前進面は原村が初めて懇談前に回答を提出してきたことです(二〇一九年度春から課長が交代)。また、茅野市・岡谷市で資格証明書が発行されるなど大きな後退がありました。これからどのような運動が必要か、市議の皆さんとも相談して対策を練る必要があるかと考えます。

5回目の懇談でしたが、出席団体の減少や実際の事例報告の少ない事が今後の課題です。